

地方自治体実地体験個人レポート

研修員番号 A-93

所属府省 経済産業省

氏名 栗原優子

派遣先 佐賀県武雄市

「テーマ：“がばい” 武雄のまちづくり」

2009年6月1日から5日までの5日間、私たちは佐賀県武雄市役所にて研修をさせていただきました。

武雄市は佐賀県西部に位置する。2006年に武雄市、山内町、北方町の1市2町が合併し新生武雄市が誕生した。人口約5万2000人、財政規模は平成21年度予算ベースで約185億6000万円である。

体験内容

6月1日（月）、市の概要説明、組織機構・財政状況の講義の後、午後は税金徴収業に同行させていただく。その後、市長のお話をいただき、市長の溢れるエネルギーに圧倒され、今後の自己の業務へのやる気がみなぎった。

6月2日（火）、道の駅を視察する。並べられている商品は全て武雄市（特に旧山内町のものが多い）でとれたもの、また市民の方が手作りしたものである。午後は地元農家でチンゲン菜の株植えや種まき等を体験させていただく。農家の方々との意見交換の機会も設けていただき、農業を支えていらっしゃる方の生の声を伺うことができた。

6月3日（水）、消防指令センターに伺い消防、救急の実態を伺う。管轄は武雄市内のみでなく広域にわたっており、高性能の設備が整っていた。市内各所にある、民間の方からなる消防団を一括管理しており、武雄の土地柄、災害等での出動も多いそうである。次に河川事務所に伺い、水害に悩まされてきた武雄の歴史と、現在の課題・対策について伺う。特に水害の頻発する地域では、地元の人たちの自助での防衛活動が盛んだそうである。その後は市民病院を訪問し、民営化の実情について興味深いお話をいただいた。午後は、リサイクルセンターにて、ペットボトルや缶の仕分け作業をお手伝いさせていただいた。ここは、高齢者や障害者の就職先として活用されていた。

6月4日（木）、いのしし加工場視察、レモンガラス作業所見学等を行う。午後は、日本一大きな登り窯にて陶芸体験をし、それから市の重要な観光資源である武雄温泉の見学、そして市職員の方の熱心できめ細かい対応により誘致に成功した「佐賀のがばいばあちゃん」ロケ地見学を行う。

6月5日（金）、水道局視察、水害に悩まされながら、水供給の面でも課題の残る現状についてご講義いただく。また、武雄市新規採用職員の方々と意見交換の場を設けていただき、武雄市に関する問題意識、国に対する問題意識等を共有した。

***税金徴収体験**

税の徴収に同行させていただいた。税金を滞納されているご家庭を巡り徴収を行う。一見、門構えは非常に豪華であるにも関わらず滞納し続ける家や、居留守をきめこんでいると考えられる家、当然のように渋り続ける人などを巡る中で、税徴収の現実、困難さを強

く実感した。実際に一軒一軒回って声をかけ、地道に徴収を行われるのを見ることで、私たちが普段の業務で使わせていただいている税金が集められる現場を知ることができた。国民から見れば、自分の財産を無条件に行政に預けることが義務づけられているのであり、その点、それに足るだけの信頼を行政が得られているのかと、改めて考えさせられた。私たちは国民の皆様のお金を預かっていることを真剣に自覚しなければならず、また、それだけの結果を出すことも求められているのである。

***道の駅視察**

道の駅においては地元で朝獲れた新鮮な野菜を非常に安い値段で販売している。兼業農家の方が農協に出すほどではない量の作物をここに出荷しているのである。また、朝早くから賑わっているのは、観光客の来訪のみによるのではない。ここは、地元の人々も日常の買い物の場として多く利用しているのである。併設されている「なな菜」というレストランでは、入荷された野菜をふんだんに利用したお料理をビュッフェスタイルで提供している。一つ一つのメニューや器などあらゆるところにこだわりが感じられる、お洒落なレストランである。平日でもお昼時には常に満席になるほど繁盛している。道の駅スタッフの方は、「武雄にはこれといった特産品はなかったのだけど、食料自給率は高く、普段使いの野菜はどれも新鮮でおいしい」とおっしゃっていた。この道の駅は地産地消の取り組みを、地元の方を巻き込みながら、ごく自然なかたちで行うことが可能としている良い例であり、他の地域にとってのモデルケースともなるであろう。

***農業体験**

農業体験をさせていただくとともに、武雄市における農業の実情のお話を伺った。武雄市では多くの農家が兼業農家である。農家の高齢化は進んでおり、深刻な担い手不足である。日本の農業を強くするため、大規模専業農家をつくろうと、また、民間企業の農業参入を容易にし、大規模農業を担わせるといった考え等があり、経済効率性の観点から注目されている。ただし、山地や中山間地等、とても採算はあわず、そのような部分では営利目的の担い手であれば必ずや放棄してしまうであろう、とのお話であった。現在農業をやっている方の中には、先祖代々伝わる農地を守りたい、武雄の土地を保護したいとの思いから耕している人もいる。それは単なる効率性を求めた経済学では説明できず、その現状を見、お話を聞くことでしか浮き彫りにされない事実であろう。農家の方は、行政と農家との話し合いの場が必要であると繰り返しおっしゃっていた。当事者である農家の方の意見や批判を直接、政策立案に酌み入れるしくみは当然整備されるべきものであるはずだ。

***いのしし課、レモングラス課、観光課**

今年4月武雄市ではいのしし課が創設された。ここでは、イノシシによる農作物被害への対策として駆除するだけでなく、イノシシ肉を食資源として有効活用し、特産化を目指すという逆転の発想からの取り組みを行っている。

一方、農業就業者の高齢化、生産者の農業離れ、遊休農地・耕作放棄地の増加に加え、イノシシの被害などの問題を抱えていた中、レモングラスはイノシシが嫌う傾向があるうえ、農作業の負担軽減、農業の活性化につなげられるとして、新たな武雄の特産品として選ばれたものである。

これら2課や、観光課での業務体験等を経て、武雄の資源を余すことなく使っていこう

と市政から盛り上げようとする姿勢を強く感じた。それに支援を受けて頑張っている市民の方がいれば、一方で、それに対抗して新たな動きを見せる市民の方もいる。例えば、資源を探す目は道行くおばあちゃんに及ぶ。元気なおばあちゃんこそ、武雄の宝なのである。そうして、GABBAという元気でかわいいおばあちゃんたちのユニットができあがり、今や武雄の広告塔のようになっている。他方、「GABBAに頼り過ぎだ」との声とともに、楼門商店街では武雄の焼き物を売り出そうとキャンペーンを打ち出すところが出てきた。このように市の政策が起爆剤となって、同じ方向に作用するだけでなく、反発の意見でさえも、地域の活性化につながっていていることを実感し非常に興味深かった。

国家行政と地方行政について

日本を人間の体と見て、市は細胞であり、国家はそこに血を流す役目を担っている。私たち国家行政は、個々の市が活き活きとその潜在力を発揮するのを最大限支援していく役割を負う。元気な武雄を見ていると特にその考えは確信に近づき、それぞれの自治体行政が円滑に回るよう、それぞれの地域が個性を存分に発揮できるよう、できる限りの舞台をつくっていくことが国の役割なのだと考えた。

私は日本経済の発展に貢献したい、という思いから経済産業省への入省を希望した。経済産業省でなら、日本経済のために何かしたいというときにあらゆるツールを選んで使うことができると考えたのである。ただ武雄市でお話を聞くうちに、本当に政策の実行、結果の露呈がなされる舞台はここなのだと改めて知った。国家を扱っているという議論を抽象化しすぎる傾向にあるが、具体的な帰結については常に念頭において考えていかねばならない。

所感

武雄は、市民を巻き込んで、市を盛り上げていこうという気概にあふれた街である。そうした市政の活発な働きかけがあってこそ、市民の市政への関心は非常に高く、市議会のテレビ放送は超高視聴率をたたき出している。そしてまた、市民の関心が強いからこそさらに市政は盛り上がっていく、という好循環が生まれている。ここについて国政は学ばなければならない。国民が行政に関心を持たないのは、行政の責任であるのだ。国政を担う私たちも、武雄のように、国民が参加したくなる行政を目指さねばならない。

武雄で学んだことは、「地方行政の実態」に留まらず、数々のアイディアやアピール手法等、挙げればきりがなく、今後の業務に直接生かすことができるであろうものも多くあった。私にとって武雄にこられたことは本当に幸運であり、武雄でのあらゆる出会いは間違いなく私の人生の中での財産となった。

この出会いをずっと大切に、今後も武雄を心より応援しつつ、この経験を業務に生かしていこうと考えている。

武雄市の皆様、本当にありがとうございました！